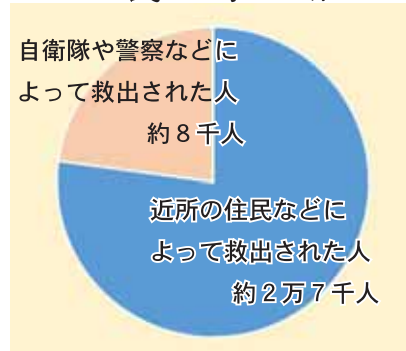


# あなたの地域にも 自主防災組織を！

## 自主防災組織の重要性

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」では、6千4百人を超える犠牲者が出る大災害となりました。一方で、約3万5千人が救出されており、その約8割の方が、近所の住民の手で救出されています。

このことから、近隣住民の災害に対する初動活動は、



行うのが自主防災組織です。  
【自主防災組織の活動】

- ・災害時
    - ① 出火防止・初期消火
    - ② 情報収集、伝達
    - ③ 避難誘導、安否確認
  - ・平常時
    - ① 情報伝達体制の整備
    - ② 防災知識の普及
    - ③ 防災訓練の実施
- など非常に重要な役割を担うこととなります。

### 【町内の自主防災組織】

現在、町内には自主防災組織が13団体結成されています。自主防災組織の結成は難しくありません。

自治会など各団体の中で提案し、自分たちのできる範囲で組織の活動内容を決めましょう。

### ■結成の要件

結成の要件として、組織の規約を定めていること、防災関係予算の科目が計上されていること等があります。

## 遠浅地区防災キャンプ、近所で近助

8月5日から6日にかけて、遠浅地区防災キャンプが行われました。「自分の身を守るにはどうしたらよいか」「ほかの人のために何かできることはないか」などを考える機会とし、災害時の心得や互いに助け合う心、思いやりの心を育むことを目的に遠浅小学校学校運営協議会が主催。遠浅自治会や子ども会を巻き込み運営チームを結成して企画されました。

また、この防災キャンプに併せて、遠浅地区では、避難訓練を実施。午後1時に緊急地震速報を想定した訓練放送が防災無線から流れ遠浅地区住民は公民館へ避難。公民館駐車場に設置する防災無線を使用し、自治会長から避難を呼びかける放送訓練も行いました。

◇座学「地震の話・DI-G（図上訓練）」  
児童向けの座学では、室蘭地方気象台の協力により「地震の話」を聞き、地震災害の怖さを学ぶことができました。

また、苫小牧警察署によるDI-Gでは、避難訓練の参加者も加わり、遠浅地区の地図を使用しながら、重要施設や危険箇所などを地図に落としこむ作業を行い、地震が起きた後の避難経路などを確認しました。



# 9月1日は防災の日

防災に対する知識の普及、啓発、防災訓練の実施や災害時の初動対応などを「地域」で

## 自主防災組織とは

多くの人命を救ううえで大変重要なものであることが伺えます。

そこで今回は、町が支援している自主防災組織の結成までの手順や活動内容についてお伝えします。